

【声明】

2016年3月14日 日本共産党京都府委員会

衆院京都3区補欠選挙に候補者を擁立せず、「自主投票」とする

(1) 日本共産党京都府委員会は、5野党合意を尊重し、これをより強固なものとして発展させる立場から、衆院京都3区補欠選挙に候補者を擁立せず、「自主投票」とすることを決定した。

(2) 5野党合意の確認は、次の4点である。

- ① 安保法制の廃止と集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回を共通の目標とする。
- ② 安倍政権の打倒をめざす。
- ③ 国政選挙で現与党およびその補完勢力を少数に追い込む。
- ④ 国会における対応や国政選挙などあらゆる場面でできる限りの協力を行う。

この間、中央段階で、参院選1人区を優先して野党間の協議、および共産党・民主党間の2党間協議が重ねられてきた。その中で、安保法制廃止と集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回を各党の選挙公約とすることが確認された。また、参院選1人区では熊本、宮城、長野、徳島・高知、沖縄で、衆院補選では北海道5区で政策協定が調印され、わが党が立候補を取りやめて野党統一候補に一本化された。他の参院1人区でも協議が行われている。

(3) わが党が他党の公認候補を応援する条件として提起しているのは、次の2点である。

- ① 安保法制廃止、閣議決定撤回を選挙公約とする。
- ② 選挙協力の意思があることを確認する。

(4) 多くの府民が「野党は共闘」と強く求めている状況下で、民主党泉健太衆議院議員の「京都では、共産党と連携することにならない」との表明が報じられた(3月6日)。加えて3月13日の民主党府連大会は、「(支持者の)拒否感の強い共産党とは一線を画す」として、共産党とは「いずれの選挙でも共闘しない」と明記した活動方針を採択した。また、「安保法制廃止・閣議決定撤回」を共通の目標とすることは、5野党合意の一番の確認であるが、泉氏は今のところ、このことを公約として明示的に述べていない。

(5) 今日までの民主党京都府連および泉健太氏の表明は、日本共産党が求める2つの条件を満たしておらず、現状では、選挙協力の見通しは立っていない。同時に泉氏は、「安保法制廃止・閣議決定撤回」を党首間で合意した民主党の公認候補である。

安倍暴走政権の補完勢力であるおおさか維新なども候補者を擁立するもとの、私たちは、「国政選挙で現与党およびその補完勢力を少数に追い込む」との項目を含む5野党合意を誠実かつ真剣に実現する立場から、「自主投票」とすることを決めた。

(6) 衆院本選挙における小選挙区の協力についても5野党間協議の対象になっているなかで、今回の措置は、補欠選挙という特殊条件のもとの態度決定である。

以上